

夏雪軒コレクションの概要

山本 真紗子(日本学術振興会特別研究員(RPD))

E-mail mayama12@fc.ritsumei.ac.jp

1. 「夏雪軒コレクション」とは

本「夏雪軒コレクション」とは 2012 年度よりアート・リサーチセンターに寄託、2022 年度に寄贈をされた、美術工芸品のコレクションである。もとは個人のコレクションであったものを御遺族の意向により本センターに寄託された。コレクションを形成された塩見勉氏(故人)は京都市内に在住で、戦後復員後に市内の老舗古美術商・山中商会(現・株式会社京都山中商会)に勤務されていた。仕事の傍ら自身も日本の文化を次世代に継承することや美術工芸品への興味を強くされ、1989 年に勤務先を退職後、コレクションを開始された。コレクションの内容は、書画、陶磁器、漆器、木工、竹細工、ガラス製品などを含んだ約 300 点以上にのぼった。塩見氏は 2009 年にご逝去され、その後は御遺族が所蔵されていた。御遺族曰く、「塩見氏はいわゆる商売気のない人物で、生前自身のコレクションについて『これらの作品は決して第一級のものではないが、かと言って価値のない三級の物でもない。大学で研究の資料として取り扱うとしたら格別大切に扱わなくてはならないものでもないが、研究用にお使いになるならちょうどよいものだから、そういうものを中心にあつめているのだ』といったことをたびたび口にしていた。蒐集者本人のこういった意向もあり、縁あってアート・リサーチセンターへの寄託・寄贈となった。」とのことである。「夏雪軒」は塩見氏の御尊父・塩見清九郎氏の軒号・雅号であったものを、センター寄託時にコレクション名とした。

コレクションは蒐集者である塩見氏によって、売買記録(帳簿)や資料写真の記録、器物の木箱への整理シールの添付などがなされている。帳簿には、購入の日時、購入場所(売立の会の名称等)、資料(通し)番号、購入価格等が記載されており、譲渡や売却した場合はその相手の名前や売却額等が書き込まれていた。また、購入時に資料の写真を撮影し、品種ごとにアルバムを作成されており、アルバムには資料一点ずつに資料を別角度から撮影した複数枚の写真と、資料番号や名称を記録したラベル、青・オレンジ・ゴールドの丸いシール(貼付がない写真も。シールの色の区別の基準は今のところ不明)、金額(購入額?売却額?)、譲渡や売却済で手元のないものを示す白い棒状のシ

ールなどが付与されていた。器物を収納している木箱には、帳簿につけた資料番号や作品名・作者名などを記入したシールが貼付されているものもある。このように、蒐集者本人による帳簿や資料番号付等、整理のための基本作業がすでにおこなわれていたが、資料寄託時には蒐集者本人がすでに故人であったため記録や分類、資料番号の詳細については御遺族も把握していなかった。また、帳簿には売却・譲渡品も含まれておりすでにコレクションに存在しないものもあることから、アート・リサーチセンターの寄託(寄贈)時にコレクションの現状を確認する必要があった。そのため、これらの写真アルバム等を附属資料として寄託時にスキャンをおこないデータをとらせていただき、寄託・寄贈にあたっては改めて現物の確認や目録の作成をおこなっている。そして、掛軸、漆器、陶磁器、その他(ガラス、金工など)の工芸品について 2012 年 3 月より寄託が開始された。

2. コレクションの内容

寄託・寄贈いただいた夏雪軒のコレクションの主な内容は、近世から近代のものを中心とした掛軸、漆器、陶磁器、ガラス、金工、石、玉などの工芸品である。具体的な件数は表1の通りで、一箱に複数の点数が納められているものについては1箱を1件と数えている。

表1 夏雪軒コレクションの内容

種別	件数	内訳等
掛軸	25	
漆器	29	盆(広蓋など)8、皿5、椀5、食籠2、敷板2、花台1、硯箱1、香合1、菓子箆笥1、盃1、水指1、重箱1
陶磁器	22	皿7、花瓶・花生5、鉢3、急須と茶碗1、急須1、置物1、珍珠入1、向付1、壺1、盃1
金工	13	茶托4、弁当箱1、楊枝入1、茶入1、やんぼ1、ちろり1、水滴1、皿1、坐像1、箱1
ガラス	7	皿4、角瓶2、花瓶1
その他	5	玉2、石1、木工1、竹1
合計		101

以下、コレクションの内訳については箱書や塩見氏

のノートに従って紹介するが、真贋や作者が未確定のものも多いため、今後の調査が必要である。作品名も塩見氏が添付した独自の題箋や画題・文様等による仮のものである。なお先に述べたように、蒐集者は購入品ごとに写真や自分なりの整理番号の付与などをおこなっていたが、いくつかの作品には作者に関する資料(経歴を書いた文献のコピーなど)が添付されている。

掛軸はほとんどが江戸期のものと思われ、画題としては《茄子之図》、《源氏物語之図》、《山水図》、《叔齊・孔子・伯夷三幅対》、《松日・松月図》、《花鳥図》、《西王母》などが含まれる。「明人筆」などとする作品もあるが、ほとんどが日本人の手によるものである。

漆器は作者名が箱書などに記載されているものだと二代山田楽全《黒塗乾漆楓葉型器》、高村表忠《黒塗蚕桑蒔絵横長盆》、青木俊勝《透漆菊蒔絵銀縁銘々皿(五客)》などがある。技法では先に挙げた黒塗や透漆のほか、長崎螺鈿細工の盆、一閑張の《溜塗糸目菓子箆笥》、堆朱の《堆朱花鳥硯箱》、《堆朱楼閣山水彫角盆》などがある。器形では、《黒塗しのぶ蒔絵横長広蓋》のような盆、《南鐐青海波模様食籠・純銀刻印付》、山成《堆朱唐花布袋唐子模様喰籠》、《輪島塗地黒梅蒔絵菓子皿(五枚)》のような菓子器・菓子皿もいくつかあり、《黒塗蕨土筆蒔絵吸物椀(20客内10客)》、《眞塗秋虫蒔絵小吸物椀(20客)》のように複数点数セットの椀や皿も多い。

陶磁器は作者名があるものとしては、京都関連では、三代伊東陶山《干支巳置物》、宮川香齋《大内焼急須(1双)》、二代宮永東山《青磁耳付花瓶》、川崎和楽作・姿本一洋画《宝珠文横長菓子皿》、二代加藤溪山《天龍寺青磁鯉口花生》のほか、栗田焼七宝繫文蓋付鉢・朝日焼銹釉画変小皿などがある。ほかに幹山伝七《染付蓋物》、有田焼赤絵皿、十二代酒井田柿右衛門《番茶器》、松岡重弘《青磁花瓶》、鍋島窯元松峯《色鍋島花瓶》などや、青磁、平戸焼、源内焼などが含まれる。器形では花瓶・花生、急須、鉢などがあるが、複数枚セットの皿が多い。

金工は銀製品がほとんどで、《黄銅銀象眼梅花散茶托(10客)》など複数点数セットの茶托が多く、ほかに《純銀槌目小判型入子弁当箱》、《南鐐扇型宝文楊枝入》、《純銀槌目やんぼ》、《純銀魚子紋ちろり(1対)》、《銀製急須型水滴》など、錫製品では《古錫象眼紋四方茶入》、《純錫輪花型茶托(10客)》がある。珍しいものとしては、《西藏 宗喀巴坐像》(宗喀巴=ツォンカパ=チベットの宗教改革者)と、細工の施された箱(タイの銀細工か)である。

ガラスは皿がほとんどで、それ以外は錫口角瓶と花瓶である。

その他の工芸品は、玉は《古代白玉彫入璧(4枚)》と《青磁龍耳遊環共蓋大香爐》、石は《赤間石松・亀彫入硯石》、竹は《一重切花生》、木工は《桑木地銀縁入

子広蓋》である。

いずれの種についても、特定の作者やジャンルへのきわだった偏りはない。塩見氏がお勤めであった美術商は日本を含む東洋美術を中心にあついていたが、今回受け入れたコレクションの多くは日本の作品であり、少し中国のものが含まれる。サイズは今回寄贈をいただいたものは、掛軸であれば横幅が60cm以上のものと30cm以上60cmくらいまでのものがほぼ同数、立体物であれば高さが最大で50cmくらいまでのものばかりでそれほど大型のものはない。鑑賞用の作品だけでなく、とくに陶磁器や漆器では複数セットの茶托や椀など飲食の器も多く、御遺族によると法事等の際に自宅で使用されていたこともあったようだ。塩見氏の自宅は趣味人である御尊父の遊びのための別宅だったそうで、欄間や床の間、玄関などにこだわりのあるこしらえとなっている。そうしたことから、コレクションも塩見氏やご家族が季節や行事、普段の生活の中で自宅を彩るために自由に楽しんでおられたものであった。なお、今回寄贈をうけたのは塩見氏のコレクションの一部で、残りは御遺族や関係者が所蔵されることとなった。

3. コレクションの大学での活用

本コレクションは寄贈の前に寄託を受けたのであるが、寄託にあたり、御遺族から「研究用というだけではなく、大学の教材としても使用してもよい」とのお言葉をいただいた。そこで、これまで何度か本学文学部の学芸員課程において、掛軸の巻き方や箱からの取り出し方・しまい方、サイズ測定など美術工芸品の基本的な取り扱い方法や美術工芸品の画像撮影についての教授を行う講義内でコレクションの一部を使用している(2013年度・2019年度)。また、寄託の手続きのために御遺族と何度がお話をしている際、本学の学生と(寄託にかかわる経緯とは全く関係のないところで)御遺族の間に偶然に交流があることをおうかがいし、本学文学部京都学専攻の木立雅朗・山本真紗子ゼミで学生による聞き取り調査をお願いし、実施したこともあった(2012年度)。このような貴重な機会をさまざまに与えてくださった塩見氏ならびに塩見氏の御遺族に感謝したい。

なお、夏雪軒コレクションの目録情報については、下記のデータベースより閲覧可能である。

「ARC 所蔵デジタル文化資源 データベース」

https://www.dh-jac.net/db1/resource/search_arc.php

「研究資源ポータルデータベース(マルチメディア対応)」

https://www.dh-jac.net/db1/resource/search_portal.php

夏雪軒コレクションの作品を検索するには、作品番号で「ksk」を入れれば全件が、「kskHS」で掛軸、「kskMD」で立体作品の情報が閲覧できる。